

平成 19 年度 第 10 回三条市廃棄物減量等推進審議会会議録

- 1 開催日時 平成 19 年 11 月 21 日（水）午前 9 時 30 分～10 時 40 分
- 2 会 場 市役所 4 階第 2 委員会室
- 3 出席者等 委員：西澤会長、坂内委員、箕輪委員、佐久間委員、箕輪委員、
原田委員、柴沢委員、中村委員、野崎委員、大久保委員
市：生活環境課（大平課長、永田補佐、高橋副参事、大谷主任）、
清掃センター（尾崎センター長）
計 15 人（欠席：五十嵐副会長）
- 4 審議会記録
議長（西澤会長） 第 10 回審議会を開催いたします。本日の議題は「答申案の再議案」であります。前回の審議会での議論をもとに、事務局で修正案を作成しております。それについて、本日議論いたしまして、特段のことが無ければ、今日で最終の審議会といたしたいと思っております。それでは事務局から説明願います。

事務局（補佐） <答申案について説明>

議長（西澤会長） 7 ページ表 5 の現状が 16 年度の数値になっているが、18 年度に変えるとまずいのか。

事務局（課長） 三条市の循環型社会推進地域計画では、こういう記載になっておまして、そのもの事態を変えていいのか迷っております。ただ、基本的には、基準年の 12 年度と 25 年度が違わなければさほど問題ではないと思っております。この計画が基本的にはごみ処理施設やし尿処理施設の建設の基本となりますので、影響がなければ 18 年度の数値に置き換えさせていただきます。

議長（西澤会長） 12 ページの市民の取り組みの中に、ごみの分別の徹底を入れなくていいですかね。市民にとって一番大変でやらなければならないのはごみ分別ですので、記載したほうがいいのではないのでしょうか。

事務局（補佐） 従来の分別をさらに徹底するという表現でよろしいですかね。

議長（西澤会長） 13 ページの啓発施設を整備するとあるが、施設の整備だけでいいのか。

事務局（課長） 施設をつくるだけではなく、この施設をどういう風に活用するのか、ソフト部分も加えて修正させていただきます。

佐久間委員 併せ産廃の受入数量の減量目標が決められていますが、事業者にとっては大変なことです。事業が活発になればごみが出るわけですので、年度が決められたからといってそれに合わせてできるというわけではない。

バイオマスタウン構想の中で、動植物性残渣等を入れてそちらの方に処理が回せるという希望が見えれば、事業者の経費負担が増えるにしても、自分のところで処理施設を整備しなくてもよいと思われれます。

バイオマスタウン構想の目標年度や、いつごろまでにやれるのか、あるいは 25 年度の減量目標までに、構想だけでなくてできるのか明記されているとありがたいのですが、無理でしょうか。

事務局（課長） バイオマスタウン構想については、いついつまでに何を行うかなどの具体的な目標年次は定めなくても良いという内容になってますが、市としましては、20 年度にそれらの構想に基づいた実証実験を行って、それをふまえて内部の目標を設定し、いつごろまでにはどのくらいの残渣を堆肥化して循環する、といったものをおおむね策定したいと考えております。現段階ではここに記載するレベルではないので、このような記載とさせていただきます。

箕輪委員 12 ページの市民の取り組みで「レジ袋の受け取り拒否」とあるが、拒否という表現を変えたらどうですか。

事務局（補佐） 買い物の際に小さなものを買うとシールを貼ってくれますが、それは言わないとそうしてくれない。

箕輪委員 お店によって、「シールでいいですか」と言うところが増えてきています。レジ袋が有料化されてきている実態もあり、レジ袋はそのうち姿を消すんじゃないでしょうかね。

議長（西澤会長） 「レジ袋を使わない」などの表現でいいのでは

事務局（課長） 今、レジ袋の有料化のお話がありましたが、行政の取り組みとしては記載していません。全国的には、ジャスコが有料化する動きはありますが、三条市内には今のところ無い中で、行政と

しての取り組みについて、何かご意見があればこの機会にお聞きしたいと考えております。

議長（西澤会長） 有料化するかどうかは事業者まかせですよ。

佐久間委員 たしか新聞報道で全県レジ袋有料化の記事がありましたよね。

事務局（課長） 県内は佐渡が取り組んでいます。

議長（西澤会長） レジ袋を問題にしているのは、むしろ事業者の方であって、経費削減の意味が大きいのではないのでしょうか。レジ袋を使わないことにしたからといって、エネルギー問題に相当な影響があるのかということはないような気がして、レジ袋を問題にしているのは専ら事業者の方であって、前から有料化したいと思っているのではないのでしょうか。

中村委員 結局レジ袋も容器包装リサイクル法でいえば、スーパーをふくめて事業者が負担をしなければならぬ金額の中に入るわけです。原信さんは、容リ協会に払う額を削減したい考え方でリサイクルするという方針を打ち出している。レジ袋の原料が高くなっており、サービスというニーズはあるがコスト面で負荷がかかってくるので、事業者サイドとしては有料化にしたいという流れがある。

ごみの問題というのは、われわれ消費者を含めて必要だから市場に供給されているということが、まず基本にあるときに、リサイクルを考えたときに必要だから供給されている。でも、必要じゃなくなったら廃棄しているというところが基本的な問題である、というところに立ち返ったときに、必要として供給されたものをいかにリサイクルしていくか、それが三条市でいわれるバイオマスであったり、リサイクル3Rであったりということにかかってくると私は思っております。そうすると、行政の取り組みの「ウ」の部分で廃プラスチックを今やるとかバイオマスをやるとかというのは、たまたま現在は、市場の原理の中で原油の高騰のベースでリサイクルした方がコストパフォーマンスがあります。しかし、将来的に見てまたそういうものが安定したときに、それがリサイクルとして環境に対して負荷がどうなのかという部分にはつつこんでいない。5年先くらいの廃棄物の削減という部分には非常に良いと思われるが、10年後15年度の三条市の環境をとらえたときには、この提言は近々の部分で終わっているのではないかと感

じています。

議長（西澤会長） プラスチックの再生については、本当に再生する方が環境にいいのか燃やした方がいいのかむずかしいところです。つまり経費との関係もあるし、どのくらい再生にエネルギーが必要になるのかもあるので、そんなに簡単な問題ではない。レジ袋を一生懸命集めたからといってどうなるものでもなさそうだと私は思う。レジ袋を削減したいのは事業者の営業上の問題であるので、行政がそこに入る必要はない。

事務局（課長） 行政の取り組みの「ウ」の中では、スーパー等へレジ袋の削減を要請すると記載させてもらった。これはいいですよ。

箕輪委員 リサイクルすることで本当に循環するのか。ごみにしない考え方は正しいが、ごみにしないためには膨大なコストをかかり、市民にしわ寄せがかかる。リサイクルを強調しすぎると何かおかしな方向に行ってしまうのではないかという気がします。

議長（西澤会長） プラスチックに関しては前からいろんな問題点が指摘されていまして、とりあえず回収するのはいいとして回収したのをどう処理するのか、リサイクルするのか燃やすのかが非常に不透明なんですね。

中村委員 国内でペットボトルをリサイクルすると、とにかくコストがかかる。リサイクルの矛盾点は、本当に国内のものをリサイクルして利用できるかということそれはできない。世界の中で先進国が排出するごみを世界で循環するようなシステムが必要になる。

取り組みとしては三条市の中でできることをやる。けれどもコーディネート部分は、いろんなところから情報を集めなければならない。

箕輪委員 リサイクルするためには小さな単体では無理ですね。大きな連携を図りながらやらないとリサイクル事業はうまくいかない。

佐久間委員 バイオマスタウン構想にある有機肥料を作るのも選択肢なんでしょうけど、有機肥料は非常に不安定なんですよ。どの野菜のどの時期に使えるかは専門家でないとうからない。栄養分やペーハーなどいろんなことを確認しなければ最終的に農家が有機肥料

として使えない。いろんなものを集めて発酵させて、それでいいというわけにはいかない。恐らく三条市だけで出る動植物性残渣やせん定枝だけでは間に合わないと思います。小さな規模でつくとコストだけがなくて、そこの有機肥料を売るときにコメリなどで売っているものよりも何倍も高くなる。やるのであれば三条市だけでなく、周辺地域も含めて全部搬入をとれるという目処を立てないと、三条市だけのバイオマスタウン構想では経費高になり、あまり意味がないことになる可能性がある。非常に専門的な知識が必要になる。

議長（西澤会長） それを言うとバイオマスタウンができない。小さいのは小さいなりにやっているところもある。二本松にある旅館組合が、旅館の残渣で肥料をつくって、それを周辺農家が利用している例もある。

佐久間委員 市としてやる場合は中途半端ではよくない。豆腐から出るおからですと、うまくやって利益を得ているところもある。おからを出すときに乳酸菌を入れて単純発酵させている。乳酸菌は他のものを排除しますので、悪い発酵が起きなくてある程度保存ができる。それを飼料用として売って利益を得ている事例もあります。

それぞれの専門家は非常に深い知識を持っている。専門家を集めながらバイオマスタウン構想を実施していけば、すばらしいものができると思います。

事務局（課長） 例えば食品残渣から肥料をつくっても、その肥料がなかなか供給されない、質の問題で農家が受け取ってくれないという問題もあります。バイオマスについては、今年度中につくった中で、あわせていろんな関係者と協議会形式を立ち上げたいと思っていますので、その中で専門家の皆さんから意見を聞きながらより循環するシステムをつくっていきたいと思っています。

議長（西澤会長） それでは、若干の修正が出ましたが、文言については私と事務局に御一任いただきたいと思います。